読売新聞より

＜くしもとから宇宙へ　２０２３＞缶サット　技術競い放出

2023/07/17 05:00

和歌山大会　４位に桐蔭高

空き缶サイズの模擬人工衛星「缶サット」を打ち上げる高校生の大会「缶サット甲子園」の和歌山地方大会（読売新聞和歌山支局など後援）が１６日、串本町潮岬の「望楼の芝」で開かれた。和歌山、大阪、兵庫、三重の４府県から計１０校が参加し、市立尼崎双星（兵庫県尼崎市）が優勝した。

生徒らが見守る中、打ち上げられたロケット（串本町で）

缶サットは、「缶」と「サテライト（衛星）」を組み合わせた造語。各チームは自作のロケットに缶サットを搭載し、上空７０～８０メートルで放出。「気温・高度のデータから今後の天気を予測」「殺虫剤に見立てた紙吹雪の散布」など、それぞれミッションを設定し、技術力や創造力を競い合った。

[PR]　小型ロケットの打ち上げが予定されている同町の県立串本古座は、宇宙飛行士に見立てた生卵を割らずに着陸させるミッションに挑戦。パラシュートが風に流され、回収できなかったが、１年の男子生徒（１６）は「力は出せたと思う。改良して再度チャレンジしたい」と話した。

２位は甲陽学院（兵庫）、３位は県立芦屋国際中等教育学校（同）、４位は県立桐蔭（和歌山）だった。